

イギリス人宣教師の手紙

石上阿希

二〇一六年の夏は、ロンドン大学SOAS（アジア・アフリカ東洋学院）の図書館にこもり、宣教師の残した手紙類を調査していた。春画をメインテーマとして研究している自分が、なぜそのような資料と向き合っていたのかといえは、特任助教として関わっている「クリシタン文学の継承―宣教師の日本語文学」ユニットの研究の一環としてであった。人間文化研究機構では若手研究者を対象に海外派遣への助成を行っている。この制度を利用して、八月から一ヶ月間ロンドンに滞在した。SOAS 図書館にはイギリスで最大規

模のキリスト教宣教師関連資料がある。主に十八世紀から二十世紀にかけて多数の宣教師らによる通信、報告、ジャーナル、写真などが含まれている。そこで、今回の滞在では、Council for World Mission Archive の manuscript 部門に保管されたメドハースト (Walter Henry Medhurst, 1796-1857) に関する資料を調査することとなった。

メドハーストはロンドン宣教会員のイギリス人宣教師で、ロンドンに生まれ、少年時代に印刷技術を習得している。宣教会の東洋伝道に応じて一八一六年にマラッカにうつり、教書出版にあたった。一八二二年にはパタビアに赴き、宣教活動を行い、ジャヴァ、上海でも活動した。そのかたわら、中国語、マレー語、日本語を学び、聖書など翻訳や、教種の辞書編纂を行った。一八三〇年に最初の英和辞書である『An

English and Japanese, and Japanese and English Vocabulary』を刊行した。本書に基づいて井上修理・村上英俊らは『英語箋』と題し安政四年（一八五七）に前篇、文久三年（一八六三）に後篇を編刊している。

SOAS には、メドハーストが一八一四年～一八四三年までジャヴァ、マラッカ、上海、ペナン島、バタビアに滞在していた間に記した書簡やジャーナルが所蔵されている。箱にして十箱、調査で全資料を撮影したがその総数は約二千カットとなった。

ここで、少しSOAS 図書館のスペシャルコレクションルームについて説明しておきたい。この閲覧室では貴重書などを調査することができる。図書館自体は平日ならば九時半から二十時半まで、土日は十時半から二十時半まで開館しているが、ここは九時から十七時まで、水曜と休日は閉室される。出納時間が決まっているので、タイミングによっては時間がかかるが、事前にオンラインで予約が可能のため開室直後からすぐに調査を始めることも可能である。コピー機での複写はできないが、申請をすれば持ち込んだ自分のカメラで無制限で撮影することができる（ただしフラッシュ使用は不可）。図書館のIDカードも研究者であれば即日発行される。

ということ、平日は水曜を除き図書館に籠もりきってメドハーストの手紙を延々と撮影していた（図）。紙などの物資も通信手段も限られていたであろう当時の状況を示すように、手紙の裏表両面に細かい文字でびっしりと文字がしたためられている。滞在地での宣教活動のほか、聖書の翻訳、辞書の編纂など日々の生活は多忙を極めたであろうが、それに加えて手紙やジャーナルで現地の様子を細かに報告しており、メドハーストの信仰に対する熱意がしのばれる。彼の直筆を追い続ける一ヶ月であったが、大英博物館に所蔵されているメドハーストの肖像画 (Mr. Medhurst, in conversation with Choo-Tih-Lang, attended by a Malay Boy) でその容貌を知ることができた。眼鏡をかけた眼差しは、真面目さのなかに若干センチティブな雰囲気たたえており、手紙の文字から受け取る印象と齟齬はない。

今回の滞在中では、思いがけず日本とゆかりのあったもう一人の宣教師のことを知った。メドハーストの調査が終わった後、ロンドンから鉄道で二時間ほどのところにあるノリッチという街を訪れた。イースト・アングリア大学に勤める友人と共に、ノリッチ大聖堂を拝観したときに、私たちが日本人だと知ったガイドさんがあるブランクの前まで案内してくれ



SOAS 図書館調査風景

た。そこには横たわる一人の宣教師と彼をとりまく二人の宣教師が描かれていた。横たわった宣教師の名はウィリアム・イングロット (William Ingfort)、一六二一年に三七歳の若さで亡くなった。彼は宣教のため、長崎に滞在した後英国に戻り、ノリッチ大聖堂のオルガニストになる。その功績をたたえてこのプラークが残されているとのことだった。実は最近、イングロットの子孫にあたる日本人がここを訪ねたそうだ。その方は現在神戸で教鞭をとっているとのことである。

英和辞典を作ったメドハーストであったが、実は一度も日本に滞在したことはない。バタビア時代に日本から帰国途中の外国人たちから様々な日本の書物を得て、編纂の助とした。その中に『訓蒙図彙』も含まれていたことを調査後にユニットメンバーである陳力衛先生から教えていただいた。『訓蒙図彙』(一六六六年序)は京都の儒学者中村惕斎によって編纂された絵入百科事典的書物で、その後何度も増補・改訂版が出された。書物は制作者の意図を離れ、時代や場所を超えていく。二〇一七年七月、『訓蒙図彙』を中心に据えた『絵入百科事典データベース』を公開した。研究者だけでなく、様々な人に活用してもらえればと思っている。

(国際日本文化研究センター特任助教)